

# 人生ハンド仏句

## 終活について

住職 谷川寛俊

「就活」「婚活」「終活」という言葉が使われるようになって久しくなりましたが、ご存じのように「終活」とは、人生の最後をどの様に迎えるかを、自分自身で決めるための準備という事ですが、多くはお葬式の準備を指します。

最近のお葬式に関わる言葉として「直葬」や「家族葬」が知られるようになってきました。住職という立場上、これまでに数回経験してきました。

『直葬』は、お通夜やお葬式をしないで、直接火葬にするもので、火葬式とも言われています。『家族葬』は、

「人生ハンド仏句」と打ち込んで頂けば、ホームページにつながります。

編集・発行  
玉蓮山 真成寺  
編集部 谷川久仁子  
TEL・FAX 0765-22-2268  
携帯 080-3744-2523  
こちらの番号でもお寺につながります。

第162号

H. 27. 9. 1

(毎月1日発行)

ご家族など内々だけで、お別れをするもので、弔問者がいない、または少ない葬儀です。これを密葬と呼ぶ人もいますが、厳密に言えば誤りです。また葬儀の場所としては、かつて主流だった「自宅葬」や、お寺の本堂での葬儀がほとんど無くなり、駐車スペースが沢山確保されている葬儀場が現代の主流となっています。時代の流れと言ってしまうばそれまでですが、大変寂しい限りであります。

本来お寺は、葬儀や法要を専門でやる道場ではなく、とりわけ日蓮宗では、日蓮聖人の教えからすれば、一切衆生(全ての人達)を法華経の教えによって幸せに導き、そして世界平和(立正安国)を祈る為の生きた教えであります。その為に、微力ながら日々精進致しております。

ところで私達は、何のためにお葬式を行うのでしょうか？仏教的には、故人の成仏を求め、引導を渡すための儀式である事は当然です。しかしもう一つ大切な役割があります。それは故人と生者のお別れです。故人を偲び、故人とシツカリお別れをするのが、お葬式なのです。生老病死と云って、私達は必ず死を迎えます。若い時はまだまだ先のことだと思ひ、年老いてくると、そろそろ考えなくては：と。終活という気持ちも理解出来ます。日蓮聖人の言葉にも「**まず臨終の事を習うて、後に他事を習うべし**」と仰っています。

つまり、いつやってくるか分からない死、突然やってくるかも知れない死、いずれにせよ必ずおとずれる死に対し、後悔のないような生き方、そして信仰のあり方を日々、念頭におきながら過

ごしなさいという格言であります。つまり、しっかりとしたお別れは生者にとって癒やしであり、その後の生活の支えとなります。また亡くなられた方には、一生懸命生きてくれた両親であれば尚のこと、敬意を表し「ご苦労様でした。安心してお休み下さい」という思いも重要なつとめなのです。

最近、葬式不要論を唱える人もいますが、霊魂不滅という考え方からすれば、故人とのお別れの式はとても大切な事なのです。更にお別れが必要なのは、家族のものだけではありません。生前に親交のあった方々にとっても、お別れは必要なことなのです。葬儀の大小ではなく、生者と死者との大変神聖なるお別れの儀式なのです。

